

題』(80), 『最後の空果てて後』(邦題『パレスティナとは何か』, 86), 『犠牲者を咎める: 学者の偽善とパレスチナ問題』『イスラーム報道』(81). 時事的発言の集成に『収奪のポリティックス』(94). 帝国主義時代の文学と, それへの抵抗, そこからの脱却を視野に収めた著書に『文化と帝国主義』(93)がある. →オリエンタリズム (稲賀繁美)

023 サイード [Edward W. Said 英] 1935-
英国委任統治下エルサレム生れのパレスチナ人思想家, 文芸評論家. カイロのヴィクトリア・カレッジを経て渡米. ブリンストン, ハーヴァード両大学で学位取得. コロンビア大学比較文学科教授. 米国民. 『オリエンタリズム』(1978年)で, オリентに関する西欧近代の知が, 言説を通じて構造として及ぼす政治的収奪効果と対象支配の暴力を抽出し, 世界的反響を及ぼす. 67年の第3次*中東戦争以降, パレスチナ問題に関与し, 74年の*アラファートの国連演説を英訳. *パレスチナ解放機構を支持するが, 白血病発病により政治活動を停止. 関連著作に『パレスチナ問

- 005 ナイポール〔Sir V. S. Naipaul 関〕19
32— 西インド諸島トリニダード生まれ、イ
ンド系3世のヒンドゥーの英語作家。オック
スフォード大学卒業後、ジャーナリスト、評
論家として活躍。モブツ政権下のザイールを
モデルにしたと思われる小説『暗い河』(1979
年)で、植民地後遺症下の根無し草的インド
出身者の悲惨を描き、注目を浴びる。故郷イ
ンドへの距離と愛憎を綴る。半自伝的作品
『闇の領域』(64)のほか、『インド—傷ついた
文明』(77)につづく『インド—無数の騒乱の
現在』(90, 邦訳『インド・新しい風—大変革
期の胎動』)の辛辣で仮借ない現実描写が賛否
両論の議論を招く。79-80年の、イラン、パ
キスタン、マレーシア、インドネシア視察の
成果として『信者たちのただなかで—イスラ
ーム紀行』(81, 邦訳『イスラム紀行』)、近代
主義の退潮とイスラーム復興の現状に肉薄す
るインタビュー構成のルポルタージュ『信仰
を越えて』(98, 邦訳『イスラム再訪』)を刊行。
2001年ノーベル文学賞受賞。(船賀繁美)

027 ラシュディイ事件 ボンベイ(現ムンバイ)生れ、英国籍の作家サルマン・ラシュディイ(Salman Rushdie, ウルドゥー語ではサルマーン・ルシュディイ、1947-)の小説『悪魔の詩』(*The Satanic Verses*, 88年刊)は、クルアーンのパロディ仕立てだとして、刊行以来、英国などでムスリムによる焚書事件を引起し、インドでも発禁処分を受けていたが、イランの指導者*ホメイニーが89年2月11日に発布した*ファトワーにより、同書はイスラーム冒瀆と認定され、著者を含め出版に関係した者は、信者の手で処刑されるべし、との宣告を受ける。まもなく“恥ずべき棄教者”ラシュディイの首には600万ドルに相当する懸賞金がかけられる。

同年2月20日に欧州共同体12か国外相会議が出した共同声明を皮切りに、国際ペンクラブをはじめ自由主義圏の欧米諸国の多くでは、官民をあげて*人権の擁護、表現の自由を旗印に、イラン側の“国際テロリズム扇動”と“国際法違反の殺害教唆”を弾劾し(移民への配慮を示したカナダを除き)、同書の出版を断行する。対するイラン側は、これを欧米によって(あらたに共謀された、傲慢と、イスラームへの全面的冒瀆のしるし)(アーヤトラー*モンタゼリー)とみて、全面的対立姿勢を示す。ムンバイやカラチで大規模な反ラシュディイ暴動が発生、イランを除くほとんどのイスラーム諸国は3月13日リヤードでの外相会議で、ホメイニーの“処刑宣言”には同意しないが、欧米での小説販売停止と回収を求める決議を採択。この間、殺害の恐れがあったラシュディイは地下に潜行を余儀なくされる。6月3日にはホメイニーが死去するが、*ラフサンジャニー国会議長は、ファトワーに撤回のありえぬことを確認。

90年には、日本語訳が出版されるが、それに先立ち在日パキスタン人協会による出版反対デモが組織され、外国人特派員記者会見の席で、出版プロモーターがパキスタン人から暴行を受ける。日本書籍出版協会も日本ペンクラブも出版支持表明要請には態度保留。大手新聞社は出版元の新聞広告の掲載を見合せ、一部の大書店は小説の店頭販売を回避した。91年7月11日夜、筑波大学構内で、日本語版訳者、五十嵐一^{ひと}は何者かにより殺害されたが、翻訳と事件の関係は未詳。>

Rushdie Affair (船賀繁美)

岩波 イスラーム辞典

2002年2月20日第1刷発行 ©

編集 大塚和夫 小杉 泰 小松久男
東長 靖 羽田 正 山内昌之

発行者 大塚信一

発行所 株式会社 岩波書店
〒101-8002 東京都千代田区一ツ橋 2-5-5
電話案内 03-5210-4000
<http://www.iwanami.co.jp/>

ISBN4-00-080201-1

Printed in Japan

〔R〕日本複写権センター委託出版物〉 本書の無断複写は、著作権法上での例外を除き、禁じられています。本書からの複写は、日本複写権センター(03-3401-2382)の許諾を得てください。